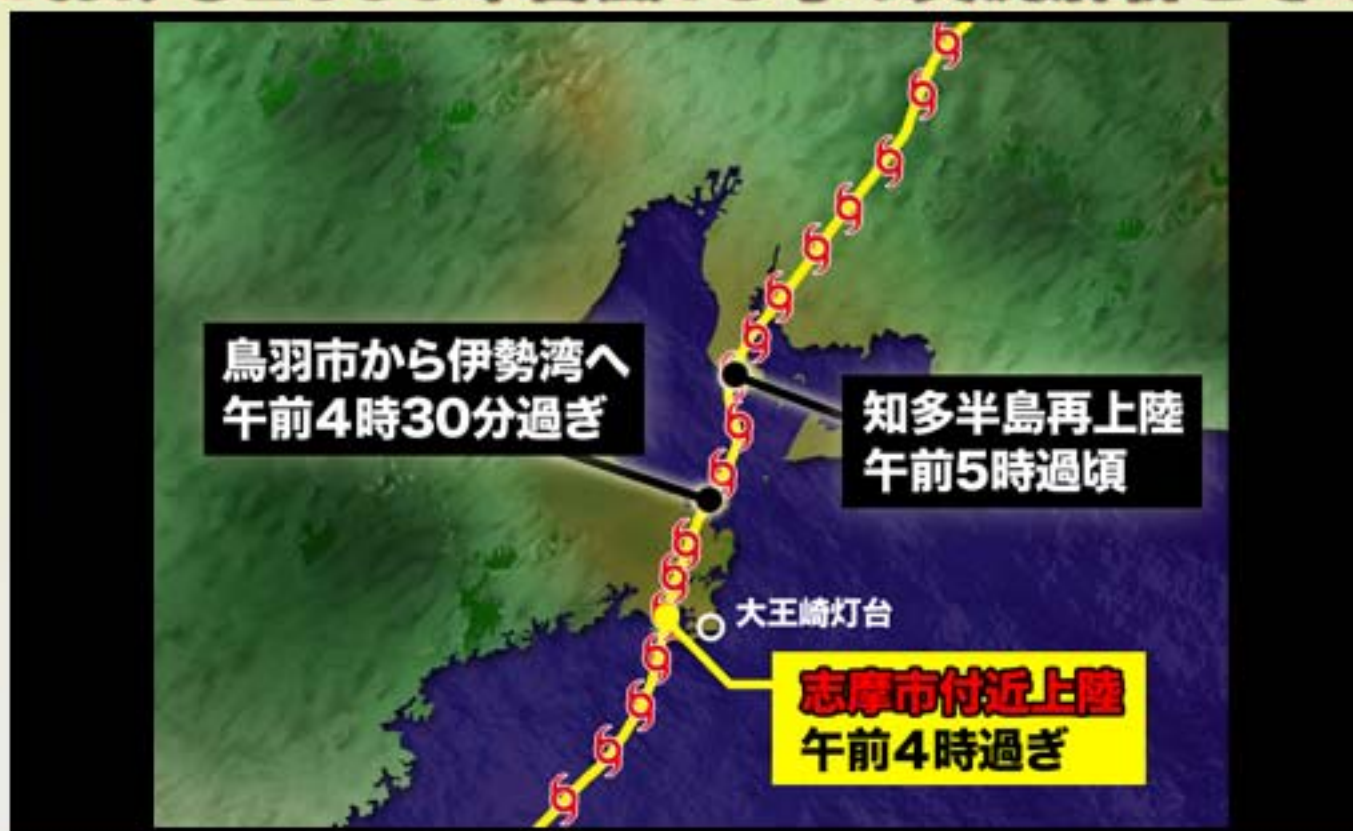




2009年台風18号の解析結果の概要

時中における2009年台風18号の実況解析とその根拠



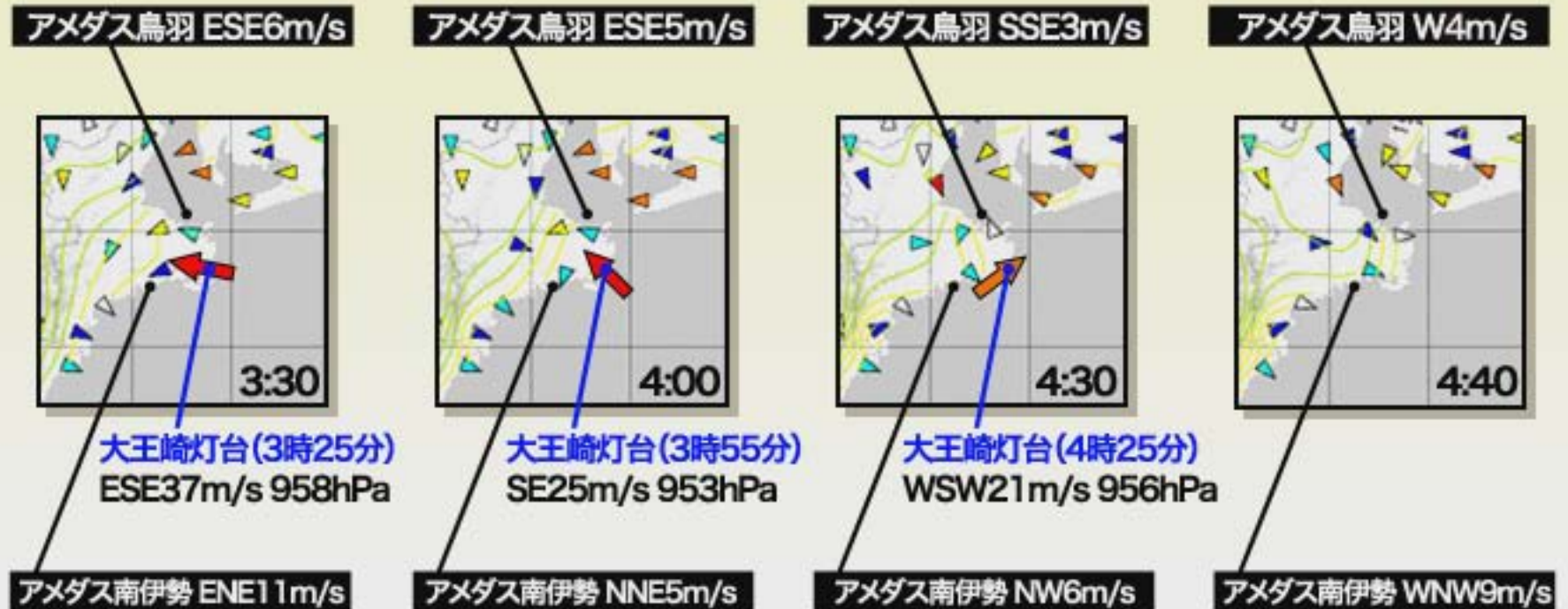
解析根拠

大王崎灯台で3:55に周囲に比べ最も低い気圧を示すとともに、大王崎灯台、アメダス鳥羽で風向が順転(時計回りNE→SE→SW)、南伊勢や小俣(伊勢市)アメダスでは風向逆転(反時計回りNE→N→NW)の変化を示した。

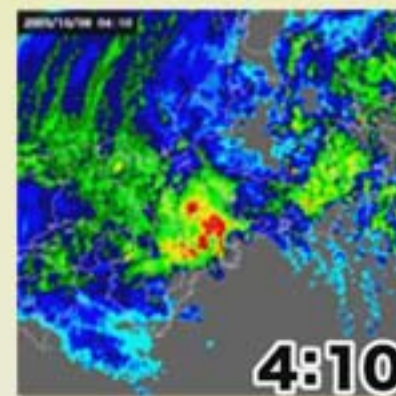
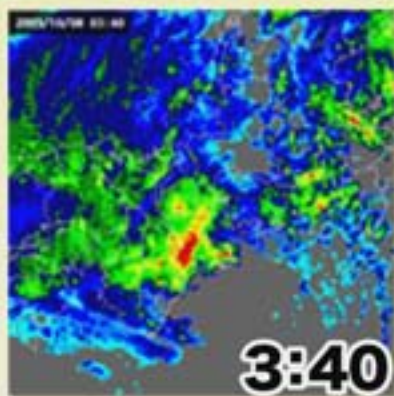
以上から台風を中心とみなされる気圧極小域と風の渦の中心が、大王崎と南伊勢の間を通り鳥羽のすぐ西を通過していたと解析された。

なお、当時、気象衛星やレーダーのみでは台風を中心は判別しにくい状況だった。(次項)

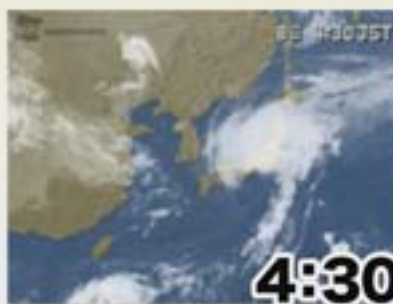
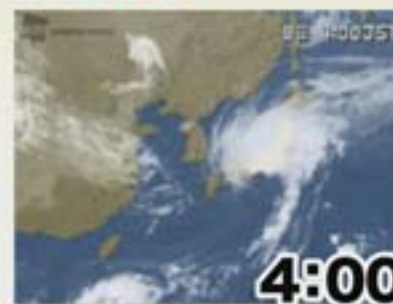
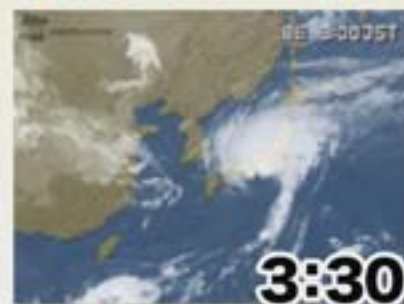
当時の風の変化(時刻は日本時間)



気象庁レーダー(西部東海レーダー)



気象衛星(赤外画像)



当時、台風目の雲は南側半分で弱まっており、雨雲レーダーや気象衛星のみでは台風の中心位置を特定することは困難で、地上の気圧と風の局地解析を併用した総合判断が必要であった。
また、午前4時前後には志摩半島東部のウェザーリポーターから「急に風が弱まった」「台風目の中に入ったようだ」という報告が急増し、局地解析を強化する指標となった。

周辺観測値の時系列変化(時中に使用したもの)

	気象庁アメダス観測			海上保安庁灯台観測
	南伊勢	鳥羽	小俣	大王崎
3:25				ESE37m/s 958hPa
3:30	ENE10.5m/s 21.1℃	ESE6m/s 21.0℃	ENE18.5m/s 21.1℃	
3:35				
3:40	ENE9.5m/s 21.1℃	SE4m/s 21.0℃	ENE17.5m/s 20.9℃	
3:45				
3:50	NE8m/s 21.2℃	SE5m/s 21.0℃	ENE18.5m/s 20.8℃	
3:55				SE25m/s 953hPa
4:00	NNE5m/s 21.6℃	ESE5m/s 21.1℃	ENE17.5m/s 20.9℃	
4:05				
4:10	NW4m/s 21.6℃	ESE5m/s 20.7℃	ENE14.5m/s 20.9℃	
4:15				
4:20	WNW4m/s 21.4℃	ESE4m/s 21.2℃	ENE9.5m/s 20.7℃	
4:25				WSW21m/s 956hPa
4:30	NW6m/s 20.0℃	SSE3m/s 21.8℃	NNE5m/s 20.6℃	
4:35				
4:40	WNW8.5m/s 19.1℃	W4m/s 20.9℃	NW10.5m/s 18.0℃	
4:45				
4:50	WNW8m/s 19.4℃	WSW8m/s 19.4℃	NW13.5m/s 17.7℃	
4:55				W21m/s 966hPa

2009年台風18号現地調査結果と台風経路



台風経路を確認するため、志摩半島周辺の風向風速計および現地リポートを調査した。この結果、赤線で示された台風コースの東に入ったエリアでは時計回りの風の変化となり、台風が志摩半島に上陸、通過したことを示唆している。また、現地から「無風になった等」の目の通過を感じるリポート等が多数あることも台風の中心が志摩半島を通ったことを示している。